

アメイジング・グレイス誕生秘話



2006年に公開されたイギリス映画「アメイジング・グレイス」をご覧になったことがあるでしょうか。主人公がイギリスの奴隷貿易撤廃を目指して奔走する中、彼が絶大な信頼をよせるジョン・ニュートンという老人が登場します。彼こそがあの有名な賛美歌「アメイジング・グレイス」の生みの親なのです。

ジョン・ニュートンは、商船の指揮官である父と熱心なクリスチャンの母のもとに生まれました。若い頃から横暴で不真面目な生活を繰り返していた彼は、商船の乗組員から果ては奴隷船の乗組員に身を転じていきました。そして、彼は幼い頃に母から神様のことを聞かされていたにも関わらず、神などいないと言ってはばかり、神様を信じている人を嘲っていました。そんなある時、船が大嵐に見舞われ、あわや沈没するという憂き目に遭います。彼は一晩中流れ込む水を掻き出しながら、初めて神様に助けを祈り求めました。「神様、あなたが本当におられるなら、こんな罪人の私ですが、どうか助けてください。」やがて船は不思議なように沈没を免れ、彼はすんでのところ助かります。その後、彼は牧師になり、神様の恵みを語り伝えることに生涯を尽くしました。こうして生まれた賛美歌が「アメイジング・グレイス」です。



《奴隷船 ブルックス号》

奴隷船の乗組員に身を転じていきました。そして、彼は幼い頃に母から神様のことを聞かされていたにも関わらず、神などいないと言ってはばかり、神様を信じている人を嘲っていました。そんなある時、船が大嵐に見舞われ、あわや沈没するという憂き目に遭います。彼は一晩中流れ込む水を掻き出しながら、初めて神様に助けを祈り求めました。「神様、あなたが本当におられるなら、こんな罪人の私ですが、どうか助けてください。」やがて船は不思議なように沈没を免れ、彼はすんでのところ助かります。その後、彼は牧師になり、神様の恵みを語り伝えることに生涯を尽くしました。こうして生まれた賛美歌が「アメイジング・グレイス」です。

インタビュー

今日は、岩間牧師にインタビューしました。

—— 宝塚に来られて何年でしょうか？

この4月で、まる28年がたちました。生まれ育った鈴鹿や学生時代に過ごした京都の町とは雰囲気の違いのところでしたが、今では居心地の良い故郷のような町になりました。

—— お好きなものは何ですか？

和菓子には目がありません。おまんじゅうや羊羹が大好きです。

—— 夢は？

一人でも多くの方々が神様に会い、不安や悲しみから解放された人生を送ることができるように、神様のことを伝え続けていきたいですね。また7月からは、デイサービスが始まります。神様の愛を土台にした、笑顔のあふれる楽しいものにしたいと思っています。



インフォメーション

7月から デイサービス 「オリーブの実」 が始まります。(申請中)

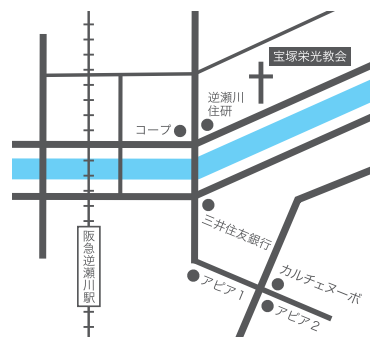
「住み慣れた場所で最後まで生活したい」という地域の方々の声にお応えしたいと思います。定員10名の小規模型ですが、少人数の家庭的な雰囲気の中で、心のこもったケアサービスを提供します。

○利用対象者：介護保険認定者(要支援、要介護者)

○お気軽に教会までお問い合わせ下さい。

デイサービス

オリーブの実



宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9

TEL:0797-73-6076

E-mail: iwama@takara-eiko.com

http://www.takara-eiko.com

希望のダイヤル 0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。

ポッドキャストでも配信！
ホームページから利用できます。

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なキリスト教会です。もしお困りの方はご相談ください。



見えるようになることです

イエス・キリストが道を歩いておられたとき、道端から急に「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と叫ぶ声があがりました。声の主はバルテマイ。彼は生まれながら目が見えない人で、毎日道ばたにすわって物乞いをしていました。自分の前を通るのがキリストだとわかると、もう居ても立ってもおれず、「ダビデの子のイエスさま…」と叫び出したのです。

人々は彼を黙らせようとしたのですが、彼は黙るどころか、ますます大声で叫び続けました。ついにその声がキリストに届き、キリストは彼を呼ばれ、「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられました。彼は躊躇(ちゅうちよ)なく、「先生。目が見えるようになることです」と答えました。するとキリストは、「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われ、彼の目を見るようにされました。彼は大喜びでキリストに従って行きました。

新約聖書マルコの福音書10章に出てくる

このお話は、私たちに何を教えているのでしょうか。第一に、私たちは目が見えない者だということです。罪のために魂の目が閉ざされて、天地を創造され、私たちが愛していただく神様がわからないのです。

第二に、私たちがほんとうに求めなければならないのは、その魂の目が開かれることです。何を求めるにもまさって、「目が見えるようになることです」と神様に求めていくべきです。

第三に、目を開いてくださるキリストを信じることです。キリストは私たちの罪のために、十字架にかかって死なれました。このキリストの十字架を信じるなら、罪が赦され、魂の目が見えるようになります。まことの神様がわかり、生きる目的がわかり、真の喜びと平安にあふれた人生が開かれてきます。

あなたもバルテマイのように、キリストに「目が見えるようになることです」と求め、魂の目が開かれた者にしていただきませんか。あなたの人生は変わります。



「木苺」

山道を わずか歩くだけで
汗ばむ この季節
夏が 近づいているのだ

今日は 木苺を探して 歩いて行った
草藪の中 すぐに見つかった
つややかで美しい りっぱな果実だ
ひとつぶ ひとつぶが キラキラ光っている

春 この場所に
木苺とすぐわかる 葉っぱと
とげのついた 茎があった
蔓といつても 蔓をなして
地肌をはうようにして のびているのだ

それから花が 咲いていた
まっ白で 可憐な花だった

木苺は 私に見つけられるのを
待っていたかのように
誇らしく 見えた

美しい実を 実らせた喜びと
確信に あふれているようだった

いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに 従って歩まず
罪ある者の道に とどまらず
傲慢な者と共に 座らず
主の教えを 愛し
その教えを 昼も夜も口ずさむ人
その人は 流れのほとりに植えられた木
とかが巡り来れば 実を結び
葉も しおれることがない
その人のすることはすべて
繁栄をもたらす

(聖書)